

## 「教科書の川の写真から学ぶ(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

教科書の導入で使われている川の写真は、どちらにお方向に流れているのか?この疑問解決は、ある子どもの発言がきっかけで、面白い展開を見せた。

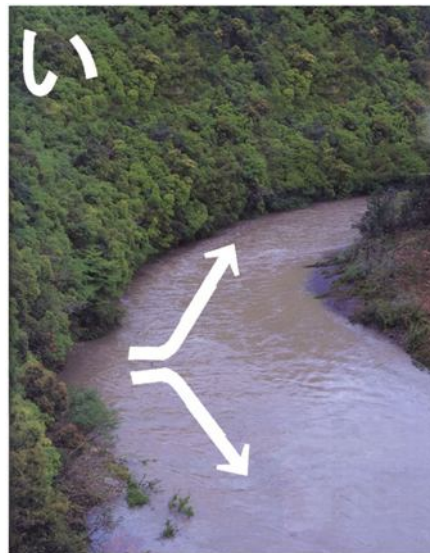
C1「私は、どっちも上流だと思います。」  
C「えーっ!?(どよめき)  
C「あり得ない。」  
T「どういうことか、説明してください。」  
(電子黒板の前に出てきて)  
C1「ここに(左岸の窪み)木がないところがありますよね?ここに地下水路・・・っていうか、洞窟とかあって、そこに両側から流れ込んでいると思う。」  
C「おーっ!!!」(拍手)  
C1「ほら、この波とこの波が、ぜんぶこの場所に向かっているでしょ?」  
C「ホントだー!!!」



「ここから水がわき出して、両側に流れています。」



まったく奇想天外な発想である。子どもというのは、大人(教師)がまったく予測しなかった発言をするものなのだ。当然、この逆の意見も出てきた。



そう説明されて写真を見ると、そのようにも見えてしまう。実際に、そんなことはあり得ないだろうが、写真からでは、「そうではない」という反論もできない。

結局、この「上流下流論争」は、どのクラスも結論は出なかった。ある男児のこの発言が、科学的に最も正しい結論だったように思う。

「教科書の写真を見ながら、班とかクラスで、これだけいっしょけんめいに話し合っても、意見が分かれたままだから、『わからない』っていう結論でいいと思います。」

「わからない」・・・勇気ある結論である。しかし、実際の自然科学も同じだ。観測事実を積み重ねても、わからない(解明できない、理論値と観測値が一致しない、数式にできない)ことだらけなのである。